府中市教育委員会会議録（抜粋）

教育長　　議案第３６号、令和３年度中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科用図書の採択について、を議題といたします。

提案説明をお願いします。

門田課長。

門田課長　　先ほどの議案集のほう、４ページをお開きください。

令和３年度中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科用図書の採択について、教育委員会の採択を求めるものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育長　　それでは、進めていきたいと思います。順番としては、例年どおり国語から順番にさせてください。

それでは、早速ですが、まず、国語の教科書について採択を進めていきますが、まずは御意見を頂戴できますか。

はい、どうぞ。松尾委員。

松尾委員　　東京書籍の方は、７５歳以上の高齢者の運転免許の返納とかいった、非常に時事的な問題が使われているんですけれども、同じように自分の考え方を持ってスピーチするというような自己ＰＲというのが必要になってくるというのもありますし、その受験だからというわけではなくて、自己ＰＲだったり、自分の思いを発信するというのは、これからとても重要なことになっていくと思います。光村図書は、地域や子どもたちに目を向けたテーマを設定して、話し合う活動をさせるような意図がみられ、非常にこれは有効に使えるんじゃないかなと感じました。

教育長　　光村図書ということですね。

松尾委員　　はい。

和知委員　　私も光村図書がいいかなと思いました。今回、コロナで自分で自宅で勉強するということが子供たちに課せられたときに、やっぱりノートの取り方とか、自主勉強するときにどうなのかなって思ったんですけど、国語１年生の教科書の１８ページですか、ノートの取り方の例というのもあって、書き留める、書き方の工夫だったり、言葉を調べる、国語辞典とか漢和辞典、様々な辞典の調べ方が、結構分かりやすく説明してあったりしています。また、「学習の窓」で、分かりやすく説明するには

どうしたらいいかとか、各ポイントがすごく見やすく出ているなと思ったので、私は、どの教科においても、やっぱりノートをとったり、調べたりなんかするときの、参考になるのではないかなと思いました。

教育長　　髙橋委員。

髙橋委員　　最後のほうに、１年間の学習を振り返るページが結構載ってまして、それも小学校からのつながりの中での振り返り、また、次の年度につなげていくための振り返りといった章に出てくるページも結構とってありますので、こうしたところでつながりという点では非常にいいんではないかなというふうに思った次第です。

教育長　　藤井委員。

藤井委員　　和知委員が言われた、「学習の窓」光村図書の看板積み、それが一覧になって出ているんですけれども、私が今見ているのは、中２の教科書なんですが、説明的な文章を読むために、どんなことを捉えたらいいかということのポイントが書かれていて、主体的に見通しを持って学んでいくというのに、学習の窓が役立つのではないかなと思います。また、中１の教科書の初めに、これもさっき和知委員が言われたんですけど、学び方みたいな、小学校から中学校へ上がったばっかりの生徒たちが、中学校の国語というものに、こんなふうにしていったらいいんだなという見通しを持って、意欲的に学んでいくためには、非常につながりが意図されていて、光村図書がよいかなと思いました。

教育長　　今、光村図書という御意見が数多いんですが、それ以外の教科書についてはいかがですか。

私、もちろん光村図書も、今おっしゃられたところはいいなと思いますが、東京書籍の後半のほうに、例えば１年生で言えば、２２５ページからまとめになるのかなあ、学びを支える言葉の力とか、基礎編とあります。実は来年度から言語技術を府中市でも取り入れながら、そういった言葉の力をどういうふうに高めていくか、思考させていくかという取組みをやっていこうとしているんですが、この辺りはつながるところなのかなという視点で見ておりまして、比較するとか、記述とかで区別して考えていくとか、つながり、そんなところがあるなというと

ころでは、いいなと見させてもらいました。

ほかによろしいですか。

御意見がないようですので、それでは、光村図書という意見が多く出されましたが、光村図書で採択をしてもよろしいでしょうか。

（はいの声）

教育長　それでは、国語は光村図書を採択いたします。

次は書写です。教科書を見る時間を最初７～８分取って、それから意見もらいましょうか。

御意見があればよろしくお願いします。

松尾委員　東京書籍の後半のほうに、いろいろ手紙の書き方でしたりとか、生活に応じてこういうときはこういう字体で書いたらいいですよっていうのがあるのは非常に魅力的なんですけれども、光村図書のほうは、ワークブックじゃないかと思えるぐらい練習がいっぱいできるところがあるんですね。これから特に文字を書くという機会が減っていく中、きれいな文字を書くというのを練習するというのは非常に大事なことになってくると思うので、私は光村図書がいいと思います。

教育長　ワークブックというのは、最初のほうにあるところですよね。

松尾委員　はい。間でもちょこちょこと書けるようになっていまして、紙もざらざらしているので、鉛筆等で非常に書きやすいんじゃないかなという感じもしました。

教育長　確かに後半のほうにいろんな手紙の書き方とか、はがきの書き方とか、東京書籍もいろんなパターンいうんですか、いろんな書き方載っています。光村図書では、入学願書の書き方は、中学生にとってリアルな部分だなと改めて思いました。また往復はがきは、中学生の部分でどこまで必要かなとは思いますが、このようなモデルがあるということは、ある意味、ポイントを突いて載せてあるのかなと思いました。

藤井委員　私は東京書籍の、例えば最初の楷書だったら、後半部分に情報を整理した書き方で、何か科学研究のようなノートだとか、楷書の書き方を理解して漢字を書いてみたりとか、手紙があったり、これは文字を学ぶということが、こういうことにつながるという生活への広がりというものが、何か学びというか、そういうものが子供に伝わって、いいかなと思いました。光村図

書にも似たようなのが巻末にあったり、どちらもその辺は意識されているのかなと思いまして、目標の与え方というんですかね、楷書であれば、単元名が読みやすく書くための楷書というのが、光村図書では明確に書かれてあって、そして目標も漢字を構成する点画の種類とその筆遣いというようになっていて、筆遣いがそこにトン・スー・トンだとか、この向きで入っていって、一回ここで止まって、だんだん軽くはらうみたいな筆遣いがそこに明確に図解されている。

一方で、例えば東京書籍のほうがどうなっているかは、あるのはあるんですけど、楷書の一個前の単元に、小学校の学習を振り返ろうということで、筆遣いのところが出ている、そういう感じになっています。

そして、目標は、点画の書き方と字形の整え方を理解して書こうということで、その目標の出し方が光村図書のほうが具体的で、そして即、そのページに筆遣いが書かれてあって、こういうことに気をつけて読みやすく書くのが楷書なんだなというので伝わるんじゃないかなと思います。目標の与え方というか、提示の仕方というのが、光村図書のほうが私はいいかなと思いました。

髙橋委員　三省堂の４５ページですけど、書写についての何を学ぶのか、どういったことを、その次にやるのかというところが、マーク分けといいますか、そのマークが全てのページにあり、このページはこういったことを学ぶんですとか、最終的に振り返ってみたりとかしてします。次のページには１年生と３年生の自分の文字の違いがはっきり、３年間勉強した中での違いが分かるようなページも入っておりますので、非常に注目度が高いかなというふうにも思った次第です。

教育長　そのほかないですか。和知委員。

和知委員　私は一つ比べてみるのに、東京書籍は振り返って話そうってなっているんです。最後のところに、字を書いて、それを学習して、どのように活用したか話し合ってみようとか、必ず書くだけでなく、その振り返りのところに、話そうっていう言葉がついているんです。あとの３つの教科書については、自分が学んだことを書き残そうとか、振り返ろうはあるんですけど、自分が書いたものに対してのチェックみたいな感じで書かれて

いるので、ここがちょっと違うのかなあ。

学習を振り返るというのも、光村図書だったら、点画の省略を理解してとか、自分の書いた字に対しての振り返りだけなんですけど、そこの部分を意図しているのかなと思いました。

教育長　確かにあと話し合おうというのは、東京書籍ですよね。

和知委員　そうです。

教育長　自己評価というよりか、これをどういうふうに広げていこうかとか。

和知委員　書いたものを相手に伝えるとか、この意味とか、ほかの人にも話をしてどうかという、そういうふうに持っていっているように思ったので、ここがちょっと違うと思うなあと。

教育長　話合いを目指している感じですね。光村図書は自己評価、1時間で何をどう自分で意識したのかということを評価、自己評価ですよね。

それぞれ良さはあるんだろうとは思うんですが、1時間、書写の時間をやった後に、どこまでその活動ができるのかということを考えたら、実際話合いのところまで行くのかなということあるのですが。そうなると、自分でこの1時間をどういうふうに学んだのか、どう意識したのかという自己評価をきちっとさせていくというほうが適切なのかなと思います。

藤井委員　今、この光村図書のお手本のところにＱＲコードがついていて、ちょっとやってみたんですけど、筆遣いが全部、楷書で「天地」って書くなら、その筆遣い、行書で「深まる秋」だったらそのこう、このはらいがこう流れていって、ここで止まってみたいなのが全部動画で説明されてまして。

ここＱＲコードが入ってましてね、これは。だから横書き一本でも筆遣いがちゃんとこう動画になって出てくるので、大変何かイメージがしやすいのかなと。ほかのにもあるんですかね。

和知委員　こういうふうに一つ一つにはついてないんですよね、見たら。

ついてることはついてるけども、全体的な。

藤井委員　大体お手本のところには全部あるようなんですけど。

和知委員　光村図書が一番事細かに入っているなと思う。

藤井委員　１人１台タブレットを持って。

教育長　必要に応じてでしょうね。

もう一回自分で見ようと思えば見れんことはないでしょう。

藤井委員　講師に書写の時間に入っていただいて、書写をしたことがあるんですけど、それがいいのは、やっぱり目の前で筆の運びなんかを見せてもらえるというところが、すごくよかったので、字形を整えて書くとか、点画のつながりを考えて書くとかといったときに、この筆運びがこうやって見れるのは、非常に有効なのではないかなと思いました。

教育長　東京書籍、あるいは三省堂も、御意見はありました。光村図書への御意見のほうが多数あったと思いますが、書写は光村図書を採択してよろしいでしょうか。

（はいの声）

教育長　それでは、書写は光村図書を採択します。

続きまして、社会の地理的分野をお願いします。時計で２０分ぐらいまで見てください。

それじゃ、御意見がある方からお願いします。

藤井委員　東京書籍と日本文教出版のを見ていたんですけど、日本文教出版は、表紙を開いてすぐのところが地理の分野を学習するに当たって、こんな学習をするんですよっていうことが、見開きで示されているんですが、東京書籍のほうは、地球上のいろいろな場所の自然が出ていて、教科書選定の観点の基礎・基本の中の国際社会で主体的に生きていくためのというあたりの、視野を広く持って、グローバルな視点を持って地理を見ていこうというような意味合いが教科書全体に通してあるのではないかなというように思いました。

一方で、日本文教出版のほうは、地理というものを身近に、地理というふうに区切って勉強したことはこれまで小学校では特になかったので、地理を学習するということが、身近なところにどうつながっていくのかといったあたりに重きが置かれているのではないかと、何か二者それぞれ違うんだなということがあるような気がしました。

それは基礎・基本の中の我が国の国土と歴史に対する理解とか愛情とか、そういうあたりにつながってくるのかなと思ったんですけれど、どちらも工夫されているのかなと思いました。

また、最終章がどちらも地域のあり方ということで、東京書籍のほうは宮崎市の例を挙げて、探求的な学習の流れが示してあり、日本文教出版のほうは、京都市を例に挙げて、探求的な

学習の流れが示してある、例示してあるということで、どちらもそこはすごく工夫して教科書を作っているのかなと思ったんですが、ぱっと見て、東京書籍のほうが流れがよく分かって、自分たちの探求的な学習をしていくときに参考にしやすいかなと私は思いました。

もう一つあるんですけど、東京書籍は第４章が地域のあり方で、その前のページは３章の学習を確認しようということで、基礎・基本のまとめのページがあります。３章の学習を振り返って、一度自分で学習を整理してみるというページのそこにあるのは、基礎・基本を知識的な部分を獲得するには有効なのかなと思いました。

教育長　　３つぐらいの理由をおっしゃっていただいたのかなと思います。

藤井委員　　どっちがいいかというのは、あれなんですけど。

教育長　　ただ、一番最初に言われた、まず開いたときに、どっちが子供たちが興味を持つかなとなったら、私が子供なら、多分写真の世界の様子が見れたらうれしいかな、おおっと思うかもしれませんね、単純にですよ。

それぞれ、多分狙いがあってこういう１ページ目にされているのだと思うんですけども。

クイズをうまく使って、子供たちが作って興味を高めていこうというのが東京書籍のほうにあって、これは子供たちがこれから考えていくのに、そのきっかけにもなるし、意欲的にもなるのかなという、そんなことは感じました。

環境的な学習は、どの教科書会社も意識はして、取り入れておられるのかなという感じはしますよね、確かに。

松尾委員　　細かいところになるんですけれども、東京書籍の１３１ページ、ちょうどオセアニアのところなんですけど、クイズではないんですが、見え方、考え方ということで、オーストラリアの農業の地域的な特色を説明しましょうみたいな問題のときに、同じような問題が日本文教出版でも１０９ページに、オーストラリアの太平洋の島々の人々の生活や産業を自然環境の面から説明しましょうというような感じで、ちょこちょここういった問題が出ているんですが、ちょっとだけ東京書籍のほうが、ここから読み取ってみたいな感じで導きがされているので、東

京書籍のほうからは感じられるので、親切かなと。

教育長　　そうですね。こういう根拠がありますから、そこをしっかり見てくださいと言っている。

松尾委員　　実はここ、自粛期間中に子供が課題としてやっていたところなので、よく読んでたとこだったんですけど、こういったところから読み取ってとかあるほうが、やっぱり学習意欲が湧きやすいのかなと思いました。

教育長　　読み取れる子はなくても多分大丈夫なんでしょうけども、なかなかそういう読み取りにくい子供さんにとったら、支援の一つかもしれませんね、そういうことになれば。

ご意見どうでしょうか。

藤井委員　　写真の何か使い方がすごく東京書籍が上手で、九州地方なら九州地方を象徴する写真が章の最初にばんとあって、中四国だったらその瀬戸大橋がばんという、ただ、それだけのことかもしれないですけど、これから九州地方を学習しようというときに、そうやって出てくるのは、すごく何か意欲っていうか、何か意欲につながるかなと思います。もう一つは、その章の中四国地方、九州地方の最後には、何か思考ツール、説明いただいたと思うんですけど、思考ツールみたいなので、関連づけてまとめることができ、いろんな事象を、気候とか地形とか、だからこうなってというのをまとめていくやり方ができたりするのも、ただ何か事実を学んで覚えるということではなく、問題解決的に学んだり、主体的に学んだりすることに有効なのではなかろうかと思いました。

教育長　　例えば整理の仕方が様々、いろんなことが示されているのが東京書籍ですかね。

藤井委員　　日本文教出版にもあるんですけど、大きくてページが、東京書籍が大きくて、何か分かりやすい。日本文教出版にもあるんだけど、ちょっと目立ちにくいというか。

教育長　　表の形、図のような形を上手に使って整理をされているというか、そういう例が示されているというか。

藤井委員　　そうです。

教育長　　よろしいですか。

それでは、今、東京書籍の御意見が様々出されたと思いますので、地理的分野は東京書籍を採択させていただいてもよろし

いでしょうか。

（はいの声）

教育長　　地理的分野は東京書籍を採択します。

続いて、歴史の教科書です。４２分ぐらいまでご覧ください。

意見があればよろしくお願いします。

松尾委員。

松尾委員　　日本文教出版にも東京書籍にも年表は各ページというか、見開きにつき１か所は書いてはいるんですけど、東京書籍はページの下に横長に書いてあり、日本文教出版のほうはページの右側に縦長に書かれています。私には日本文教出版のほうが、非常に目について、今がどの時代かというのが見やすくて非常に魅力的でした。さっきの地理と同じような話になりますが、間、間の学習課題ですね、こういうことに着目して学習してみましょうというのが、東京書籍のほうが細かくて、どういうことを学習したらいいのかなという導きが非常に分かりやすく質問されているかなと感じました。

日本文教出版のほうは、ちょっと質問がざっくりしていて、その意図をくみ取るのが上手な子にはいいんでしょうけど、東京書籍のほうがちょっといいんじゃないかなというのを感じました。

教育長　　より具体的に示したんでしょうね。さっきと一緒ですね。

松尾委員　　そうですね。例えば東京書籍の６７ページの院政や平清盛の政治にはどのような特徴があるか、グループで話合いましょうというのも、摂関政治と比べてというような導きがあり、日本文教出版だったら７２ページの源頼朝がつくった政治の仕組みにはどのような特徴があるのでしょうかという形なので、東京書籍は導きのある分、入っていきやすいので、そういったところでいいように思います。

教育長　　どうですか。和知委員。

和知委員　　東京書籍の１４ページなんですけど、身近な地域の歴史から入っているというのが、最初のハードルが身近なものから入っているというところがいいかな。子供たちが歴史を学ぶのに自分たちの地域の歴史からいろいろ、上のところにテーマの設定をして、調査をしてというふうに段階も分かりやすく、調べ方もそういうもので調べるというか、スキルアップのページが示

されていたりとか、書籍を調べたりとか、インターネットで調べてみようという、これから調べていく上で、すごい勉強の仕方というか、学習の仕方をここでまず、自分の身近なところからやっていこうというのが分かりやすくていいのかなというふうに思いました。

それを踏まえて、次が古代までの日本というふうに入ってきているので、ほかのところはやっぱり順番を追っての進み方になっているというんですかね。

教育長　ここはどうなんですか。学び方を最初に示してという捉えでいいんですかね。

和知委員　私はそう捉えたんですけど。

教育長　ここで地域のことをまず何か学んで、次にというよりかは、歴史を学ぶ中で、例えば江戸時代のところで地域との関わりが深い地域だったら、そこでその地域を学んでいこう、そのやり方としてこういうやり方がありますよ。ということかな。

学び方を示してあるのは間違いないと思うんだけど。例えば、ここの例で言えば、中世から近世にかけての世界史の歴史で、１６ページに整理されてますよね。

最初のあたりは、歴史をどう学んでいくかの整理をして、それで、実際のところへ入っていって、地域の歴史もそうやって調べてみようというところへ行くんじゃないかなと思われるんですが。その学び方をきちっと最初に示してあるというのは、必要なことだと思いますね。

和知委員　私的にはいいのかなと感じたんですけど。

武田主査　自分の地域の歴史等も興味が持てるようなスタートですね。

教育長　最初のところで、地域の歴史を調べようではないと。

武田主査　ではないですね。

教育長　ではなくて。

武田主査　学習を進める中で、地域にも興味を持てるような。

教育長　例えば、府中市だったら、国府があった時代との関連とかね。という捉えをしていければね。

武田主査　はい。

教育長　東京書籍はまとめ方、例えば９６ページだったら、Ｘチャートで整理をしていくようなまとめ方で、ほかのところを見ると、例えば１４６ページ、ピラミッドストラクチャ、いろんな整理

の仕方を示してありますよね。２０４ページのウエビングとかですね。そういうまとめ方も様々な例を出してまとめていくという方法、子供たちにとっては今後へしっかりつながっていくという思いもします。

和知委員　自分中心のもので歴史に対しても興味をもって、調べ方とか、こういうふうに調べるという基本的なところから入っていって、答えが出るので。

門田課長　調査委員が各教科書を比較したときに、まず、学び方のポイントとか、どういうふうに発展させていくかというところでは、東京書籍のみならず、どの教科書もその方法は示しているんですけれども、東京書籍は、まずは課題をどうつかんでいくかというところ、それも小学校での学習とはつなげながら、課題をどう追及していくか、そして、その追及していく中で、どう調べていくか。それから、最終的にはそれをまとめていくというような、一貫した流れは東京書籍は意図的に構成しているというのは、調査委員はそれの整理してくれているんです。

教育長　他に御意見ございますか。よろしいですか。

藤井委員　ページ数は日本文教出版が大分多いです。重たいですね。

つい最近、戦後のところを読む機会があったもんですから、戦後のあたりを両方とも見ていたんですけど、日本文教出版の最初に、敗戦国としての再出発ということで、占領政策なんかが出てきて、そして、日本国憲法が成立して民主化を進め、そんな中で国民がどのような生活をしていたのかというようなあたりが述べられて、その次に冷戦が出てきますけれども、東京書籍のほうは、占領下での様子と、それから民主化と、その後も割合すぐに冷戦と。

国民生活の闇市だとか、そういう苦難な歴史は、触れられてはいるんですけど、文章としては、そこまで詳しく載ってなくて、文章でそこを日本文教出版が割と詳しく扱っているというところは、歴史から学ぶ。どの本にも、どの社の教科書にも、最初のところに、なぜ歴史を学ぶのかということは述べられていて、その趣旨は皆、同じようなことなんですけど、そのあたりに、だからここを詳しく書いているのかなというような感じがしたのですけれども、でも反対に東京書籍はページ数は少ない、そこに限ってのページ数は、ちょっと少ないんですけど、

写真とか、そして憲法の比較の表だとか、こういったものが大変分かりやすい。どちらにもあるんですけど。

同じような写真が、共に使われていたりするんですけれど、例えば、農地改革で、自作地と小作地がどう変化したのかというあたりも、東京書籍だと、自作地と小作地の割合だけではなくて、自作農と小作農の農家の割合も合わせて出ていたり、要は周りの資料がとても詳しい感じがして、甲乙つけがたいということなんですけど、周りのこの写真と資料がとても東京書籍は充実しているから、生徒が学習するについては、それは一つ、中学生にとってはいいのかなと思います。

この章に限らないんですけど、第７章第１節の１、占領下の日本、学習課題は占領された戦後の日本はどのような状況だったのでしょうかと。最初にこの、いつも見開きのページの学習課題のとこに大きく出ている。日本文教出版にもあるんですけど、もちろんあるんですよ。ポツダム宣言の受諾、敗戦は日本に何をもたらしたのでしょうかという課題があるんですけど、教科書を読んで自学しようということを考えると、すごく見やすいと思います。これはちょっと。

非常に資料、写真が、この報告書の中でも、ページ数は東京書籍が少ないけれども、写真は１３３、日本文教出版は写真１０５みたいな感じで、そこにちょっと東京書籍の特色があるかなと思いました。

教育長　写真があることはインパクトがあるとは思うんですよね。それをどう活用するかというところにはなるんでしょうけどね、結局は。

ほかにいかがですか。よろしいですか。

東京書籍の御意見が多かったのかなとは思うんですが。東京書籍ということで採択してもよろしいでしょうか。

（はいの声）

教育長　歴史は東京書籍を採択します。

公民を御覧ください。５分ぐらいで。

髙橋委員　公民といいますと政治とか経済、あるいは地域の関わり、いろんな関わりを持つ入口にあたる学習だと思うんですけれども、この年代の方の意識、一番低いかと思うんです、１０代の子が。そうした状況の中で、やはり関心を持っていただきたい

という点からいうと、日本文教出版、イラストがいっぱい使ってあるんですね。そうすると、この世代の方に受け入れやすいかなと思うし、いろいろシンキングコーナーみたいなのも結構入れてあって、グループなりいろんなところで意見交換ができたり、この年代の方の好みそうなツールなどものっていますので、日本文教出版がよろしいかなと私は思います。

教育長　　漫画的な部分は結構ありますね。

公民って何を勉強するかって、何を学ぶんだろう、ちょっと取っつきにくい部分があるのかなという視点で、最初のところを見ていたんですが、東京書籍で言えば、巻頭３ページから４ページ、このあたり。それから、日本文教出版で言えば、４ページからですかね、はっきりつかみにくいのは正直言ってあるんですよ。あるんですが、一つ一つ見ていくと、東京書籍のほうが、こんなつながりの部分を考えるのかなというのが分かりやすい。

日本文教出版は文章であるんですけどね、東京書籍では吹き出しのような形で、短いんですが、こんなことということが分かる。大きな違いはありませんが、東京書籍のほうが、分かりやすいかなという感じはしました。

髙橋委員　　そういうところを押さえているのは東京書籍なんですよ。

教育長　　「みんなでチャレンジ」が、東京書籍のところであるんですけども、グループでとか、個人でこんなことを考えましょう、話し合いましょうというような視点で示されていて、ここをしっかりと踏まえていけば、考えが深まったり整ったりしてくるのかなと思います。

松尾委員　　すごく単純なことなんですけれども、教育長がおっしゃられた「みんなでチャレンジ」という中で、例えば東京書籍の１１８ページだったら、福山市が簡単ですが載っていますし、もっと言えば、１２６ページには、広島県の尾道市も載っていて、こういう近所が載っているのは、子供たちにとって身近に感じられるいい材料だと思いました。

和知委員　　そうですね、身近で頑張っている学校があれば、自分たちも頑張って、今度は自分たちが教科書に載るような学習をしようと真剣に取り組んでくれればいいなと思います。

教育長　　１８歳選挙権になっていく中で、政治にどう向き合うかとい

うか、この辺も必要なところだと思うんですよね。

先ほどあったように１１８ページのあたり、神辺の例ですね、その後には「市長になって条例をつくろう」というところもあって、興味や意欲は高められる図式にはなるのかなと思います。

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

東京書籍の御意見が多いかなと思いますが、公民分野は東京書籍でよろしいですか。

（はいの声）

教育長　では、公民は東京書籍を採択いたします。

次は地図、お願いします。

松尾委員。

松尾委員　帝国書院のほうは、判が大きいので、持ち運びは大変かもしれないですけど、その分、地図が大きいので、非常に見やすいと思うんですね。

ちょっとヨーロッパのところを比べてみたんですけれども、帝国書院だったら４９ページ、東京書籍も同じ４９ページなんですけど、ヨーロッパの鳥瞰図が載っていて、東京書籍のほうは海の深さも分かるのは分かるんですけれども、ぱっとヨーロッパの土地がこんな感じなんだって見えやすいのは、逆に海は平面にしといて、陸地のところだけを鳥瞰図にしてある帝国書院のほうが分かりやすいのかな。イメージがつきやすいかな、そういう感じがしました。

教育長　そうですね、確かに。

帝国書院は、確かに大きいだけ見やすいなというのはあります。昔はここまで大きいとは思わなかったんですが、今回大きくなったんでしょうね。

東京書籍のほうは、資料のほうはたくさんあるようですが、どこまで活用するかなんでしょうね、結局ね。資料集は資料集として多分持っているんじゃないかなとは思うんですが。教科書含めてね。たくさんあるほうがいい場合もあるでしょうけど、逆にありすぎて、何を使うかというところは難しくなる場合もあるかもしれませんが。自分でいろいろ発展的に調べていこうとか、興味を持ってやっていこうという子供にとっては、いろいろあると、いろんな視点から考えられる可能性もあるかなとは思いますね。

それぞれのページの中に地図活用というのが、これは帝国書院のほうには入れてあって、興味を持って地図を見れるいうか、資料を見れるというか、そんな工夫もされているのかなと思うんですね。

どうですか。

藤井委員　やっぱり地図が大きいほうが、見やすいのが一番いいかなと。

紹介していただいた、日本全図が載っているとこが一番顕著だったのかなとは思うんですけど。やっぱりあの全体図は、帝国書院のが見やすかったと思いました。

教育長　帝国書院という御意見が出ておりますが、帝国書院を採択してよろしいでしょうか。

（はいの声）

教育長　それでは、地図は帝国書院を採択いたします。

休憩します。

（休憩）

教育長　それでは、続いて、数学に入ります。

教育長　日本文教出版ですけども、章に入る前に、これまで学んだことを復習して、新しいとこに入っているというところは、流れから言えば必要なことだなと思います。そこは日本文教出版はよいと思います。東京書籍では、活用の問題をいろいろとちりばめている。章の最後とか、それから最後のところにも、そういった中身のところですね、２５１ページのあたりでは自由研究のような形にはなっていますが、思考力、表現力を高めようというようなところですね、そういった問題をしっかりと取り上げているというところでは、東京書籍はいいかなと思います。

松尾委員　数学の場合、だんだん中２、中３と上がっていくにつれて、答えだけじゃなくて、それに導くまでの式を書いていくことが増えていくと思うんですけど、東京書籍のほうは、字体も変えてあって、私が生徒だったら、ここのところを参考にして書けばいいんだなというのが非常に見やすくつくってあるなというのを感じました。

日本文教出版は、問題も答えも同じ字体で書かれているんですけれども、東京書籍のほうは枠でくくってあって、字体を変えているので、解答の模範例みたいになっていて、自主学習とかするときにも役に立つのではないかなと思いました。

教育長　　それは東京書籍のほうがよいということですか。

松尾委員　　はい。

教育長　　いかがですか。比較がなかなかね、難しいところがある。

東京書籍で言えば、やっぱり学び方ですかね、問題をつかんで、見通しを立ててという学習の流れというか、それが幾つも示されているというところは、子供たちはそういう思考の流れをつくっていくのには、繰り返しそういった体験をすることによって、学び方も学べるのかなということを感じます。

藤井委員　　答申の中には、東京書籍も日本文教出版も、巻頭にノートの作り方が示してあって、どちらもあるんで、見ていったら、どちらもポイントがきれいに書いてあって、これはどちらも大事なことで、ちゃんとあるんだなというので、どっちもいいなと。

その巻頭のノートの部分の隣に、日本文教出版は、第１章の「式の計算を学ぶ前に」という章で、ちょっと思い出してほしいことが、注意事項が入っているので、授業に入ってしまってから何がどうだったっけじゃなく、これからこういうことを使って勉強するんだなという履修事項との関連があるのは、これは日本文教出版がいいかなと思いました。

教育長　　これまでとの学習のつながりというのは丁寧にされているのかなという感じがしますよね。

藤井委員　　その次の式の計算の導入というか、身近な問題から入っていくところは、日本文教出版はカレンダーの数字を５つ選んで、何を選んだかということが、答えを聞いたら、お姉さんには分かっている。そこになぜ言い当てられたのかというところに、文字式を使って計算したら、これができるんでしょうけど、そういうクイズ的な問題が出ており、東京書籍のほうは、運動場のトラックのセパレートコースをつくるという、ちょっと難しかったんで。

教育長　　何ページですか。

藤井委員　　１０ページ。２年生の１０ページで、これはどちらも第１章、式の計算の入り口だと。

日本文教出版の場合は、この１０、１１ページでよくあるクイズみたいなものから入っていって、それが第１節の単項式と多項式の最初の問題として扱われていくという流れなので、割と入りやすい形。

ちょっとこの東京書籍のほうは、少し難しめかなとは思う。私としてはちょっと感じました。

確かに松尾委員が言われたような、枠で囲んで、これが大事だよみたいな計算の仕方とか、こういう間違いがしやすいですよとか、これとこれが同類項で、これとこれがまとめられるというふうに色分けしたりしてあるところは、よく似たことが日本文教出版でもしてあるんですけれど、枠で囲みもしてあるし、目立つのは東京書籍のもの、ビジュアルがよく分かるかなと感じる。

教育長　間違い例を入れるのもいいかもしれませんね。

藤井委員　よくある間違い。

数学は前の学習との関連とか、そういうものを積み上げていく教科なので、日本文教出版の既習事項をここと関わらせて学習していくのだというのが割と見えるものは、数学的な考え方を使って数学を学んでいくという意味では、とても大事なことではないかと、それは思いました。

そのことは日本文教出版、２年生だったら６ページと７ページに、こういう考え方を身につけましょうということで、問題の答えだけではなく、根拠を明らかにするとか、何かと同じように考えるという考え方が必要なときがあるのか、関連づけて、式を関連づけることが大事だというような考え方を何か大事にするんだよというようなことが込められているのは、全編通じてそのような教科書が編集してあるんじゃないかなと感じて、それは大事なことではないかと思います。

教育長　東京書籍と日本文教出版、それぞれの意見が出ていますが。

藤井委員　中身自体が難しいので、比べられないんですけど。

和知委員　さっきのカレンダーの。

教育長　あれは２年生ですか。１０ページですね、最初のページ。

和知委員　２年生の１０ページの持っていき方と、こっちの東京書籍の２年生の３０ページに、やっぱりカレンダーを使った持っていき方。

日本文教出版はクイズ形式にして持っていく中でやっていく。

髙橋委員　家庭学習なり自主学習する上では、東京書籍のほうが分かりやすいなと思うんですが。

教育長　　家庭学習ですか。

髙橋委員　　自主学習するにしてでも、予習、復習含めてですね、そういう意味では導き方も結構書いてあるので、問題提起、仮説を立てた上で解決に導くまでのプロセス的なところが書いてあるから。

教育長　　日本文教出版は既習事項もきっちりやって入っていく、そこをある意味大事にされている。東京書籍は、学びを深めるとか、学びを生活につなげていくようなところとか、そういうところをやっぱり大事にというか、丁寧に扱っておられるかなという感じはするんですけれども。

藤井委員　　答申の中に、東京書籍の二重丸のところ、日常生活における問題場面を取り上げているというのが、中３の第６章、円という、たまたまそこを見たんですけれども、１６６ページ、東京書籍は、この３枚の写真は、どれも黒板の両側がぴったり入るように撮られています。どんな位置から撮ったのでしょうか。これが、その次の１６８ページから内容に入っていく円周角の定義というところにつながっていくことでも示しています。

中学校３年生が、このまだ全く学習していない第６章に入ったときに、これを見たときに、どのぐらい対応できるのかが、ちょっとこれよく分からないんですけど、東京書籍がそういう日常場面とか、そういったことに活用できる数学というので、言ってみたら学んだらこれが分かるようになるはずだというようなところから始まっているのかなと思います。違うかも分からないんですけど、円周角について学習していったら、最後にはこの問題は分かるようになるはずなのかなと思って、ちょっと私としては難しく感じたんです。

一方で日本文教出版は、章の前に既習事項があるみたいですから、１個ずつ解決して、積み上げていくという形を大事にしているのかなというふうに至って、最終的にはその日常場面へも応用できるようにというのはもちろん思っていると思うんですけど、既習事項からこっちに１個ずつ解決していくという順接型というんですかね、順次やっていく感じかと思うんですけど。

同じ円のところが、やっぱり円周角の問題から最後にいうことと、何てこともない、写真に比べたら何かおもしろみはなさ

そうだけど、どんな性質が。

教育長　　日常生活の場面というのは、例えば、これは２年生かな、東京書籍の２年生の９０ページや１８６ページのコンビニのデータ活用、そこら辺りのところもあるのかなとは思ったんですけど。

藤井委員　　じゃあ、私が思ったのは、ちょっと何か思い違いかも分からないんですけど、その章へ入っていくときの入りが、日本文教出版は既習事項から１個ずつ丁寧にやっていく、東京書籍のほうは、ちょっと目は引くんだけれども、少しどうやるかなというような問題から入っていっているので、それをどちらを大事にするかかなと思ったりもしました。

教育長　　そうですね。

藤井委員　　ぱっとこの写真を見て、どうやって解決するのかということが、中３で何かイメージができるもんだろうかなと。

和知委員　　分からないですけど、東京書籍の１年生の１４５ページのほう、それを例題に出されたのではないかと、あそこから比例と反比例。

藤井委員　　これは割と分かりやすいですね。

和知委員　　そういう感じでちょこちょこ出しながら、３年のここに持って行かれているのかなと思う。

教育長　　生活の場面ということですね。

和知委員　　場面で、待っています。時間までに帰るのかどうかという設定の中の。

この後に、最後のほうに、２４８ページに、比例とみなしての予想する項目があって、こういうふうに考えが出てきている。

教育長　　もう一回整理しているんですよね。

和知委員　　そうです。

これは多分東京書籍の持って行き方なのかなあというように私も感じたんですけど、ただ、どちらがいいかと言われると、ちょっと。

教育長　　両方の意見があるので。どちらかに決めなくてはいけないので、東京書籍か日本文教出版。

髙橋委員　　府中市の中学生の数学の理解度、どうなんでしょうか。

教育長　　中学校の数学の理解度、少し弱い面もあるのではないかと。

門田課長　　中２の数学ですか。確かちょっと弱いかもしれないですが、

極端に悪いわけではない。

教育長　　極端に悪いわけではもちろんないですね。

既習事項を、さっきの既習事項があっていいよと。もちろんすごく大事なことだと思うんですが、それを今の教科書の中でやるという、教科書があるのでそれに基づいてやるとなると、小中一貫の教育でやってきた中で、今までの状況はどうなのかを定めた上で、次の単元を進めていくというやり方は、学校のほうでできるだけやっていこうということですので、教科書になくてもできるのかどうかというところも一つポイントになるのかなと思うんですけども。

もちろん教科書だけで教えるわけではないのですが、一方では、教科書があったほうが意識にはなるだろうとは思いますし。

どちらかで、決まりましたか。

松尾委員　　多数決でいくんですか。

教育長　　意見が他に無いようなら、多数決にしましょう。

東京書籍か日本文教出版ということで。いいですか。

では、最初、東京書籍がいいなと思われる方。（挙手４）

日本文教出版がいいなと思われる方。（挙手１）

教育長　　分かりました。では４対１でしたので、東京書籍を採択します。

それでは、続いて理科にいきます。

答申を十分活用してやっていきましょう。

藤井委員　　答申の中にもありますし、説明の中にもあったんですけど、東京書籍１年生の第４章８６ページ、入りのところの白い粉末の見分け方で、問題を発見して、そこから課題が生まれ、調べ方を考えて、ガスバーナーの基本操作で安全面ということがあり、実験があって、そして実験から分かったことが、結論がある。その流れでいっているので、それがとても課題発見、解決学習ということが、そういうところに対応していて分かりやすいかなと。

教育長　　下のほうにも示してありますよね。今はどこをやっているのかというときもね、明確になっていますよね。

藤井委員　　はい。その点はすごく分かりやすいのではないかなと思いました。

教育長　　確かに大型になって、縦長になって見やすいのかなという、

確かにそういう感じもしますね。

和知委員　私もそれはとっても見やすいなって思ったんですよね。

啓林館のほうなんですけど、これは２年生の１３６ページです。「実験を正しく安全に進めるために」という項目、方針が上げられているんですけど、やっぱり最初に、こういうことに気をつける、何かがあったときには、対処方法とか、そういうことを先にきちっとした形で、説明されているというのは、やっぱり大切なことなのかなあって。

確かに、東京書籍も書いてあったかな。注意事項が余り見えなかったんですけど。

安全に進めるための注意事項が、私には見つけられなかったんです。やっぱりこういうのは大事なことかなというふうに思ったんですけど。

あと、啓林館の３年生の生命から入って、地球、エネルギー、環境、サイエンス資料として上げられているのが、すごいいいなあと感じたんですね。最後の探求シート、付録の。

教育長　これですか。

和知委員　これが振り返りだったりとか。

教育長　これは１年生もついてたかな。各学年、学期のシートは全部。

和知委員　各学年ついてますね。

教育長　ついてましたね。

和知委員　生命というのにすごい惹かれたので、自分たちの生きているということも大切さを学んでほしいなと思います。

教育長　生命の最初のところですよね。

内容的にはどこにも出てくるんだとは思うんですが。

和知委員　そう。ですけど、やっぱり一番に目について、印象に残ったので。

教育長　啓林館は写真を上手に使ってますね。きれいですね。

和知委員　きれい。

藤井委員　ここは私も啓林館は、花のつくりなんかを比べてみても、写真とイラストがとてもよく分かる。そこを見ても啓林館はいいと思いましたね。

教育長　いかがでしょうか。

松尾委員　ところどころイラストで吹き出しになっているところがあるんですけれども、例えば、東京書籍だったら２年生の６０ペ

ージとかに、「酸化と還元は同時に起こるんだったね」みたいな感じで、大事なところをもう一回ポイントで改めて言ってくれているので、それは生徒にとっては分かりやすいんじゃないかと。

逆に啓林館は、質問形式が多くて、その質問の学びが大事なんですけど、これから先、また自学習をしないといけないというときには、あまり疑問系で言われるよりは、ある程度大事なポイントはこうだったねって言ってもらった教科書のほうが合っているんじゃないかなと思いました。

教育長　確かにポイントになりますね。

つくりから言えばですが、東京書籍は、例えば章の初め、１年生で言えば７５ページ、最初に下のほうにビフォー＆アフターがあるじゃないですか。自分の考えをノートに書きましょう、最初に、ある意味予想というか、自分の考えをそこで持って、勉強して、最後に、その考えがどう変わったか、どうなるか、最後になって、９２ページに、一番最後にもう一度考えようということで、その考えが変わったのか、変わらなかったのか、そこら辺りをイラストではあるけども、示しながら構成しているなというのは感じましたね。全ての章がそんなつくりになってるかな。

写真とか色使いとかは、やっぱり啓林館のほうが、そこはいいかなとは思いますけれども。

どう学ばせていくかとなったときには、東京書籍かなという感じもしまして。

髙橋委員　東京書籍のこの縦長の判が、今度タブレットとどういう関わりを持ちながら、授業なり学習が進んでいくかというところも。

教育長　そこら意識してあるという感じですかね。

意見として何かありますか。ここだけは言っておこうとかありますか。

東京書籍という意見が多いかなというところですが、東京書籍を採択させてもらってもよろしいですか。

（はいの声）

教育長　では、理科は東京書籍を採択します。

次は、音楽の一般です。

藤井委員　教育出版は、目次の次のページ、学びの意味ということで、

音楽を形づくっているという要素との関連を、例えば、１年生の１つ目の単元の「青空へのぼろう」だったら、強弱とか旋律とか、構成、音色、こういうところが大事なんだよと、こういうところに気をつけるんだよと、目をつけて学ぶんだよというのが示されていて、そういうことはすごく分かりやすく、また、それに対応したようなことを単元の中で実際にイラストで、吹き出しはないんですけど、吹き出しのような感じで、強弱や音の高さも意識して、声の出し方を工夫しましょうとか、そういうふうに要所要所に書かれています。それはとても分かりやすいと思いました。

松尾委員　教育出版のほうなんですけれども、この教科書には書き込んだりする場所があって、そうすることによって、学習が深まりやすい工夫がされているように思いました。

教育長　例えばどこでしょうか。

松尾委員　例えば２・３年の下の２２ページとかですね。曲をつくるんですかね。

教育長　そうでしょうね。

松尾委員　そういうところとかも書き込めるようになっているので、学習しやすく、また深まっていいんじゃないかと思います。

教育長　他にはどうですか。

教育出版の意見が出ているのですが、他に言いたいことがあれば、ぜひ言っといてください。いいですか。

では、音楽一般は、教育出版を採択してよろしいでしょうか。

（はいの声）

教育長　では音楽一般は、教育出版を採択します。

続いて、音楽の器楽をお願いします。

髙橋委員　音楽一般と関連性はあるんですか、出版社。

教育長　同じ出版社であれば、教科書に関連性がないとは思いませんけれども。同じ出版社の教科書でないといけないということではありません

和知委員　楽器が多様化したんですかね。

教育長　大枠が出ていたようには思うんですけれどね。ギターはあったと思いましたし、太鼓、箏。

和知委員　ちょっと離れているので、私の頃は三味線とかそういったようなものはなかった。

教育長　　それはここ何年は、太鼓とか琴とかいうのは、かなり学校のほうでもそろえてきましたから、日本の文化をしっかり継承して伝えたいと思っています。

松尾委員　　教育出版のほうなんですけれども、中学生と言えば、メインはリコーダーだと思うんですけれども、最初のほうのページがずっとリコーダーで、そこの曲のといいますか、ページの左上のところに、こういったことに気をつけながらというのが、各曲に書かれているんですね。例えば１０ページでしたら、リコーダーの初期とその後の関わりを理解したり、右手で低い音を表現するそこを身につけたりしながら表現しよう、こういった目標というか目当てがあるというのは、非常に分かりやすくていいんじゃないかなと思いました。

髙橋委員　　そんなに大きな開きはないとは思うんですけど。教育出版のほうが、広く楽器を知ったり、楽器を弾いたりということがあるような気がします。

教育長　　教育出版という意見が出ているのですが、よろしいでしょうか。

（はいの声）

教育長　　それでは、音楽器楽は教育出版を採択します。

次は、美術をお願いします。

はい、松尾委員。

松尾委員　　日本文教出版のほうは、本当にどのページも美しくて、ずっと眺めていたいなっていう気持ちにさせてくれるものなんですけれども、光村図書のほうは、特に１年生の１のほうは、美術って何だろうとか、あと実際に自分が描き手となったらどういうことを考えながらしていったらいいかという具体的なページが、意識を持たせるページが多いんですね。特に私もここは気に入っているんですけど、２４ページなんかは「生徒の目線に立って」というコーナーで、実際に生徒が扱う教材としては、光村図書がいいんじゃないかなと思いました。

教育長　　生徒も考えやすいですね。生徒自身の製作の中で同じ生徒の考えというのが分かりますからね。

藤井委員　　私も松尾委員が言われたのと同じで、先ほどの光村図書の１年生の２人の生徒の書き方が並べて書いてあるという表現の工夫の仕方が、生徒にとっては、とても参考になるのかなと思

うし、それの前段で２２ページにモネの絵があったり、それから、その隣に何げない日常の風景があって、それをどの視点から見るとどのような風景に見えるのかっていうのがあった上で、実際に表現するとしたら、こういうふうにって生徒の工夫があって、何かとてもやる気になるかと思うのと、日本文教出版にも光村図書にも、風神雷神のページがあって、すごくきれいなんで感動しちゃうんですけど、教科書が本当にきれいだなと思って。感動します。

鑑賞のページなんで、それをどのようにこう。割と鑑賞って学習がしづらいというか、どこに目をつけたらいいのかとか、そのあたりが、何に目をつけて学習したらいいのかというのが、鑑賞したらいいのかというのが光村図書のほうが、大きな見開きページの次に出てくるところを読んでいくと、割と見やすいのかなあと。多分格好いいからみんな、結構好きな題材じゃないかと思うんですけど、それをどのようにこう見るかという、その格好よさはどこから来るのかみたいなところを、光村図書だったら３つの作品を比べてみるとか、そういったところで学習しやすいのかなと。本当にきれいな、こっちの教科書がすごいです。ヒントが出てくるのがいいです。

教育長　鑑賞して表現してのところもあるし、また、そこをさらに鑑賞する。鑑賞して表現して、それをまた鑑賞するみたいな、やはりそういう鑑賞と表現の組み合わせですかね、そこで深めていくというのは大事なことなんでしょうね、そういう流れをつくってある。その辺り、光村図書のほうがどっちかと言えば、そこを重視してるのかなあ、つくりとしては。

もちろん日本文教出版も鑑賞と表現というところは出てくるんですけどもね。

他にないですか。美術は光村図書の意見が多いですが、採択してもよろしいでしょうか。

（はいの声）

教育長　美術は光村図書を採択します。

続いて、保健体育をお願いします。

藤井委員　東京書籍なんですけど、いろんなところに、この教科書のほかのページとの関連を示すマークがついていたり、黄色いリングみたいな関連する内容は、この教科書内のほかのページにあ

るということであったり、ほかの教科にあるということだったり、それから、道徳との関連も、いろいろなところに入っていて、教科を横断的に学習するということがとてもやりやすいことではないかと思うのと、章の終わりに、発展的な内容のようなのが入っていて、そこがちょっと中学生の現代的な課題じゃないですけど、今の子供たちにちょうど合うような内容だったりして、そこがとても充実しているのではないかと思うのと、それらをイラストを使って、文章で書きあらわすだけじゃなくて、イラストで、生徒に親しみやすく考えることができるように工夫されていると思います。

例えば４３ページだったら、章末資料として胎児を育てる母体の心理ということがあったり、それから、その次のページの性の多様性とか、またその次のページで、自分の気持ちを上手に伝えるとか、またさらにインターネットでのコミュニケーションのトラブルというのも書いていて、その辺も充実していると思われます。

教育長　確かに他教科とか他ページとのつながりを示してあって、１ページにＤマークのコンテンツ内容も出てますが、これを見てもかなり広範囲にわたった感があって、結構つながりを持った学習が進められるのかなというのは感じられますね。

他の方、どうですか。いいですか。

それでは、保健体育は東京書籍を採択いたします。よろしいですか。

（はいの声）

教育長　少し休憩します。

（休憩）

教育長　それでは、技術・家庭の技術分野へ移ります。

松尾委員。

松尾委員　どちらも各章の後ろには学習のまとめということであるんですけれども、例えば教育図書だったら７６ページで、東京書籍だったら８６ページ、こういったのがまとめになるんですが、このまとめをするのでも、この東京書籍のほうがイラストとかも入っていたり、どういうことに気づいたかを文章で答えさす問題に移ることによって、いろんな見方とか気づきとかが自分でまとめやすくなるんじゃないかなと思ったので、東京書籍が

いいかなと思いました。

教育長　　そうですね。技術の中の情報の分野で出てくるんですが、特に情報モラル的な部分で、比較して見ていたんですが、東京書籍で言えば、２０６ページ辺りから、教育図書なら１９８ページ辺りから、それから開隆堂でしたら２３２ページですね。その辺りに出ているのですが、見ていったときに、東京書籍が上にイラストがあって、それを下で解説していく、こういう点がどうかというステップですね。学ぶときには、この整理の仕方は非常に分かりやすいかなという感じで見させてもらいました。

開隆堂も、分かりやすいかなという感じがするんですが。東京書籍が一番分かりやすいと思います。

東京書籍の他教科とのつながりというか、それはしっかりと書いてあるので、他教科との関連を図りながら、やりやすいのかなというところでしょうかね。

藤井委員　　今おっしゃられたところで、上の段に情報発信の便利な点と幾つか出ていて、下のほうに事例３、４の前説と自分や他人のプライバシーが大丈夫かとか、他人の著作物を不正に利用していないかとかというような問題点が出て、上と下を関連づけて見ることで、情報モラルがすごく分かりやすいところがある。

ほかのにも同じ内容を書いてあるんですけど、こういうふうに書いてあると、便利だなと思って使っていることがたくさん中学生もあると思うんですけど、自分たちが日々やっていること、でもそこに生じてくる問題点が、とてもよく分かるのではないかなと思いました。

教育長　　他にどうですか。ありませんか。東京書籍の意見が多いのですが、技術・家庭の技術分野は東京書籍を採択してよろしいですか。

（はいの声）

それでは、東京書籍を採択します。

教育長　　続いて、技術・家庭の家庭分野、お願いします。

和知委員　　教育図書のほうの２ページなんですけど、この教科書の構成というところ、「まず、導入から入ってやってみよう」から、学びを生かしてまたやってみて、振り返る、まとめるというのが、とってもどの章を見ても分かりやすく構成されているなっ

て思います。要点が分かりやすい。

教育長　　学習の流れが分かりやすいということですよね。

学習を振り返る、自己評価をするところが、それから後で見たときに、教育図書は、それぞれが終わったところで振り返るというのが出てくるんですよね。東京書籍のほうは、その章の編が終わったときにまとめて、例えば１００ページのところで、学習を振り返ろうで、その編で勉強したことが、そこでまとめようとしている。やはりその時間、その時間である程度、自己評価、振り返るほうがいいと思いますね。使い方かもしれませんが。

和知委員　　分かりやすい分で、そこでまとめるほうが。

髙橋委員　　３年間ですよね。

教育長　　そうですね、３年間でこれ１冊使います。

髙橋委員　　一番最後に振り返りがあるというのは、それぞれのテーマごとにまとめがあったほうがよろしいですか。

和知委員　　章の振り返りは、あるんでしょうか。教育図書の章で振り返るというのが２３４ページ。

教育長　　振り返りなんですが、ここは内容のところですね。

教育図書で思ったのは、問題発見、課題設定という学習の流れ、課題発見からの学習の流れが、何か所か出てくるんですよね。そういう学び方というのか、繰り返しそういった学習をすることによって、身についていくということは大事なことだと思います。

教育図書の２４ページもそういう流れを示しているし、３２ページにもある。何箇所にもわたって出てくるんですよ。

東京書籍はさっきの技術もそうでしたが、他教科とのつながりというところはしっかり出てきているので、関連した学習ということはやりやすいのかなと思います。

藤井委員　　言語活動が、結構この教育図書なんかは、「考えてみよう。自分にとって家族、家庭とはどのような存在か考えてみよう」というのを対話的にやるような光景が出ていて、その辺りは東京書籍にもないことはないですけど、こっちのほうが充実しているような感じがするんですけど、食生活のところを見てみると、調理実習が小学校では肉や魚はないんですけど、卵はあるんですけど、肉とか魚は扱わないんですが、中学校になったら

そこは使うので、すごくいっぱい出てきて楽しそうなんです。

煮魚のとこなんかも比べてみると、例えば煮魚はどっちもあるので比べてみると、とてもよく分かるんです、東京書籍のほうが。これはよく分かります、手順が。汚れを除いているところ、下ごしらえをするところ、途中煮たり、煮汁をかけてみたりしている。

ここも写真入りで、工夫は凝らしてあるんですけど、東京書籍はそれが横にずらっと手順どおりに並んでいて、見やすいなと思いました。流れが、２ページにわたって。

そういう違いなんですけど、ハンバーグの焼き方なんて違いますでしょう。手順がよく分かるのは、写真で、すごい分かりやすいんですよね。それはすごく思いました。中学校で初めてやる、一歩進んだ調理実習は楽しみにしているところじゃないかと思うんです。

単元の配列は何かちょっと違うんですね。

教育長　違いますよね。

藤井委員　はい。何か食生活が東京書籍は一番最初に来ているけど、開隆堂と教育図書はこっちじゃなくて、家族、家庭や地域との関わりというようなところが第１章で、それぞれ考えがあるのでしょうが、ちょっと違うところがあります。

教育長　１年生で何をする、どこを扱う、２年生でどこを扱うのかな。

門田課長　それは教科書によって配列が全く違いますね。

教育長　違うけども、あと学校の中の教育課程の中でどう教えていくかという話で。

必ずしも食の部分が最初に来てないかもしれないということですか。

門田課長　学校のカリキュラム、シラバスのつくり方によっては、それがあり得ると。

教育長　あり得るということですか。

門田課長　はい。

教育長　教科書の初めからやっていくわけではないということですね。

教育図書は衣食住として一つの編をつくっているということですよね。東京書籍は衣食住をそれぞれ分けた形でつくって、要するに５つに分けている。教育図書はそこを、衣食住を１つ

にしてるから３つにしているという話ですかね。開隆堂もＡＢＣの３つですね。衣食住は１つにしているんですね。

教育図書か東京書籍かという意見がそれぞれ出ていますが、他にありませんか。

無いようでしたら採決をします。

開隆堂は特に意見がなかったので、東京書籍か教育図書かで、どちらかに決めてください。いいですか。

東京書籍がいいと思われる方。（挙手２）

教育図書がいいと思われる方。（挙手３）

教育長　それでは、技術・家庭の家庭分野は、教育図書ということにいたします。

次に、英語をお願いします。

藤井委員　東京書籍と光村図書なんですけれども、東京書籍のほうは、１年生の最初のユニット、ゼロはちょっと小学校のときからの学習のつながりを意識したところなんですけど、次のワンから始まるものなんですけど、そのユニットはツー、スリーとそれぞれ場面を設定して、学校生活のいろんな場面を設定して、その場面の中で話したり、聞いたり、自分が書いたり、こういうような活動を何かうまく組み合わせて一つずつ言い方について学んでいって、最終的に５４ページのところで、ステージワンが終わるんですけど、そこで、そこまでに学んだことを生かして活動をすると。ここでは自分の自己紹介のポスターをつくるという活動が設定されているんですけど、なので、これとてもバランスよく書くとか聞くとかという活動を力をつけながら、最終的にその力を生かしてやってみるというのは、いいんじゃないかと思います。

光村図書も同じように場面を設定して学校生活の部活動であるとか、お友達のことであるとか、同じような流れで行っていると思うんですが、それだけに比べてみると、東京書籍の教科書は、判も大きいので、その中にユアターン、自分で書くとこもあるんですけど、よりいいかなと思います。

松尾委員　どの教科書にもワードリストといって、要は簡単な、この教科書だけでの英和辞書のコーナーがあって、生徒にとっては必須のページになるんですけれども、内容の差はなく、意味も同じなんですが、東京書籍が見やすい、判が大きいからかもしれ

ないんですけれども、検索がしやすいかなと思いました。

教育長　　最後のですね。

松尾委員　　はい。一番最後の。

教育長　　東京書籍という御意見が出ておりますが、他にはよろしいですか。ありませんか。

それでは、英語は、東京書籍という御意見が複数出ておりますが、東京書籍を採択してもよろしいでしょうか。

（はいの声）

教育長　　では、英語は東京書籍を採択します。

最後になります、道徳をお願いします。

和知委員　　光村図書の最後のところに、「学びの記録」というのがついているのと、日本文教出版のほうは、道徳ノートというのが振り返りなんかの経緯のまとめになっているんですけど、道徳ノートのほうが、やっぱり自分で振り返るときに書きやすいというか、最後のほうに自分の振り返りにマルをつけようとか、どういうふうに感じたかとかというのも、記録に残せていいんじゃないかなあと思いました。

教育長　　光村図書のほうは、どちらかと言えば記録のような扱いですよね。

和知委員　　記録みたいな感じの。

藤井委員　　文教出版のノートのほうは、何か以前に比べたらちょっと書く自由度が何かあるような、これを書かなくちゃみたいなのが前はあったかなと思うんですけど。

その授業によって、これ次、書かそうと先生が思われるところを書かすことができるようになっていて、何か書いたものは、やっぱり必要だと思うんで、評価をしていくということもありますし、このノートは、使いやすくなっているのではないかと思うのと、ちょっと選定委員会会長にも聞いたんですけど、いじめと向き合う教材というのが、結構何回か出ていて、直接に間接に何か扱った教材が、１年生であれば、年間３回織り込まれているというのは、大事なことではないかなと。

教育長　　いじめをユニット的にどの時期に扱うかになるんでしょうけど。

いかがでしょうか。日本文教出版の御意見が多いのかなと思いますが、それ以外はありませんか。

私も日本文教出版で、「考えてみよう」とか、「自分にプラスワン」というところがあって、さらに深めるとか、自分たちの暮らしにつながるとか、そういう視点で、さらに考えてほしいなというところを示してあるのかなと思います。そして、さっきのノートのところにも自分の考えを書けるというつながりもできているかなと、そういった点はいいなと思いました。

他にご意見はどうですか。よろしいですか。

それでは、道徳は、日本文教出版を採択したいと思いますが、よろしいですか。

（はいの声）

教育長　以上で全ての教科の採択が終わりました。

議案第３６号議案の審議は全て終了しました。